

あけぼのすぎ

都立府中療育センター新聞 第446号 発行日 平成27年1月30日



新年を迎えて



院長 柳瀬 治



明けましておめでとうございます。

職員皆さん一人ひとりのたゆみない尽力のおかげで、当センターは比較的穏やかな正月を迎えることができました。特に今年はインフルエンザが猛威を振るうなかで年末年始に勤務した皆さん、仕事初めの準備を担当した皆さん、そして自宅待機して過ごした皆さんに深く感謝いたします。御苦労さまでした。

社会保障制度を子子孫孫まで健全に維持すべく改革が進められています。その一環として、医療は「治す医療」から「治し支える医療」に転換が図られ、昨年からの病床機能分化も政策的に進められる方向にあります。当センターはもとより運営理念として「質の高い療育・医療サービスを提供し、重症心身障害児者の生活が豊かなものになるように支援する」ことを掲げており、その達成には絶え間ない研鑽と医療・福祉・教育等職種間の連携強化が重要と考えます。

当センターでは昨年新センターの基本設計が完成し、今年はいよいよ実施設計に取り組むこととなります。夢と希望に満ちた新センターを目指し、ご家族、福祉保健局および関係諸機関とも連携しながら、職員の皆さんと一丸になって、安全で信頼される医療・療育を進めていきたいと考えております。フェイルセーフ (fail safe) という言葉がありますが、一生懸命努める職員が失敗してもチームでカバーして利用者の安全のために最善を尽くす、そして「障害児者の方々を護り、職員が安心して働ける」ようなセンターを目標にしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

2015年が皆様にとりましても実りの多い年になりますようお祈りいたします。

通所初詣

通所 保育士 島田 久雄

1月8日(木)・9日(金)の2日間、通所では大國魂神社へ初詣に出掛けました。当日残念ながら体調不良などで参加できなかった方もいらっしゃいましたが、両日合わせて13名の利用者と6名の御家族が参加されました。両日も混雑もなくのんびりとお参りすることができました。中には、厄払いとすることで、500円もお賽銭をあげる方もいました。両日ともに天気に恵まれ、風もなく暖かい日差しの中でお参りすることができました。

お参りの後は厄除けのお守りを買ったり、おみくじを引いたり、大きな羊の絵馬の前で記念撮影をしました。今年も元旦から幾日か日が経っている事もあり屋台の店は少なくなりましたが、お好み焼きやくし焼きの良い匂いの中「大きいお肉だね」とお話ししながら参道を通って帰りました。





第10回東京都福祉保健医療学会に参加しました

平成26年12月18日(木)に行われた第10回東京都福祉保健医療学会にて、当センター看護師2名がそれぞれ最優秀賞と優秀賞を受賞しました！！

3-1病棟 看護師 北島 直美
(皮膚・排泄ケア認定看護師)

第10回東京都福祉保健医療学会にて、都立病院在籍の皮膚・排泄ケア認定看護師が平成24年度に取り組んだ内容「公立6施設における医療関連機器圧迫創傷の発生傾向と対策」を発表し、最優秀賞をいただきました。今回の取り組みから、医療機器が原因で発生する創傷は多く、予防対策が必要なことを理解していただく機会となりました。

今回着目した医療関連機器圧迫創傷は、医療機器が皮膚に当たり、擦れる・圧迫するなどの外力で発生する創傷です。府中療育センターの利用者は、気管カニューレや栄養チューブ胃管、胃瘻、ストーマ、点滴などの治療を行うことが多い現状です。また、利用者は皮膚が脆弱で、身体の拘縮や変形により皮膚がズレたり摩擦が起こりやすく、皮膚に外力が加わり創傷が発生しやすいので、予防対策は大切です。きちんと予防対策をとれば、創傷の発生を減らすことができるので、職員みんなで予防対策を学び、利用者の快適な生活環境の提供ができるよう取り組みたいと思います。

都立認定看護師活動は月1回分野ごとに開催し、現場で発生している問題を取り上げ、認定看護師が行うべき対策を考え、利用者ケア向上に取り組んでいます。センターの皆様には、今後とも認定看護師活動へのご理解とご支援を頂き、院内の認定看護師を有効に活用していただければ幸いです。

4-1病棟 看護師 畑 瑛美子

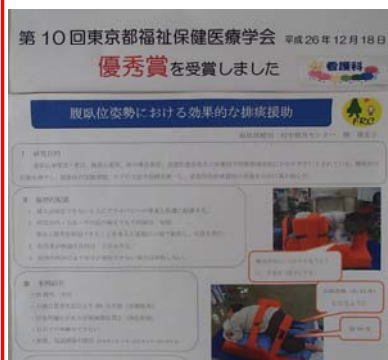
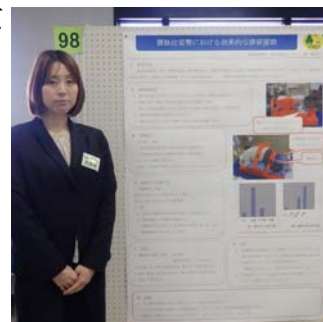
12月18日(木)東京都社会福祉保健医療センターにて「第10回東京都福祉保健医療学会」が開催されました。

今回、私は「腹臥位姿勢における効果的な排痰援助」というテーマで、院内研修での取り組みを、ポスターを使用して示説発表させていただきました。7分間という時間でしたが、緊張しながらも無事発表を終えることができました。他にも院内から、保育士の方の「緊張緩和を図り、穏やかな表情を引き出すグループ活動ータクトィールケアを取り入れてー」、

「ペットボトルキャップ回収活動による社会参加」や、栄養士の方の「おいしく安全で食べやすい食事の提供を目指して～重症心身障害児(者)施設におけるパン粥の調理の標準化の取り組み～」というテーマでポスター発表がありました。他職種の取り組みを聞け、とても貴重な時間となりました。

特別講演として、「切れ目のない医療・介護提供体制の構築に向けて～地域包括ケアシステムにおける医療の役割を中心に～」があり、病院と在宅の連携だけではなく、地域行政との連携の重要性が語られました。また、どのように生きていくのか、生きていくべきなのかと語られ、非常に学びの多い学会参加になりました

最後に、今回このような機会を与えて頂いたことに感謝すると共に、これからも学会に参加し、看護師として知識を身に着け、活かしていきたいと思っています。また、多くの皆様にも今後行われる学会には是非参加していただけたらと思います。



平成26年度テーマ別改善運動

事務室 赤間 紀子



院内発表会の様子

テーマ別改善運動は、職場の活性化や職員同士の意識向上を図り、患者・利用者の方が安全で安心な医療やサービスが受けられる環境づくりを推進することを目的として、職員自らがサークルを結成し、職場の身近で具体的な問題の解決に取り組む自主的活動です。

当センターでは、今年度も12サークルがサービス向上・業務改善等のさまざまなテーマに取り組みました！昨年の10月31日（金）には院内発表会を行い、多忙な業務の合間を縫って取り組んだ成果を、しっかりと報告し合いました。

院内発表会で最優秀賞を受賞した「虹色レンジャー☆4-1」は、災害等の発生時に速やかに「入所者の生命と安全を確保する」ため、アクションカードを再作成し、ベッドネームや心臓マッサージ位置カード等を工夫・活用して、重症心身障害児者の特徴に合わせた防災訓練に病棟職員全員で取り組んだ成果をわかりやすくまとめたものです。

1月14日（水）都庁大会議場で、今年度の活動を締めくくる「テーマ別改善運動発表会」が開催され、都立・公社病院、都立重症心身障害児者施設等で活動した全223サークルの中から代表18サークルが、多種多様な改善提案を発表しました。当センター代表「虹色レンジャー☆4-1」の発表は、入賞こそ逃しましたが、審査員からは「患者さんに対するきめ細やかな工夫対応がなされている」等の評価を受けました。また、他部門への本取り組みの波及等に関する質問もあり、センター内での防災の取り組みの充実につながるよう期待されるようです。

テーマ別改善運動に取り組んだ各サークルの皆様、お疲れさまでした。もう、来年度に向けたテーマ選定に取りかかっていると思いますが、積極的な取り組みをお願いします。



院内発表会表彰式



都庁大会議場にて「テーマ別改善運動発表会」の様子

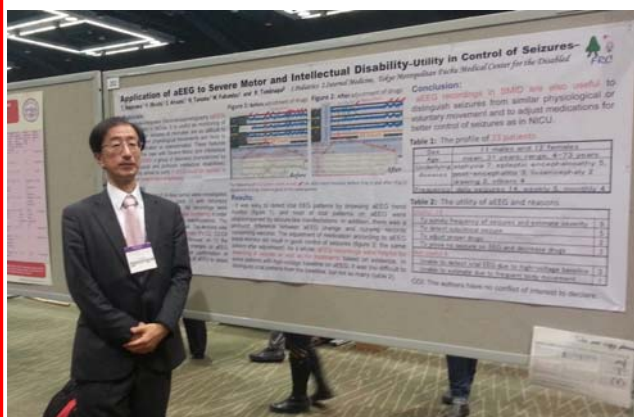


院内発表各賞受賞サークル一覧

	所属	サークル名	テーマ名
最優秀賞	4-1病棟	虹色レンジャー☆4-1	防災訓練 みんなでやれば、こわくない！！
優秀賞	ICT	手水仕掛人	『多角的 感染防止 啓発活動』
	4-2病棟	匠の技	劇的びふおーあふたー4の2版 ー働きやすい職場づくりー
敢闘賞	1-B病棟	カード歯磨き隊	個別歯磨きのカード化
	1-A病棟	トイレでポトン	フラット型車イストイレの作成 ～利用者の生活が変わる～

アメリカてんかん学会参加で感じたこと

小児科 医師 長澤 哲郎



メタセこいやんとくぬぎちゃんも全米デビュー

平成26年12月5日(金)から9日(火)までシアトルで開催された第68回アメリカてんかん学会に参加いたしました。この学会は、けいれんのコントロールから家族の支援にいたるまで、てんかんに関する最新の知見を共有するための場となっています。他の学会と比べて、患者さんのために何ができるのかという視点が一貫していることと、医師、看護師はもちろん、検査技師や心理士、ソーシャルワーカーなどてんかんに関連するあらゆる分野の人たちの発表があることが特徴となっており、これら

の点で日本重症心身障害学会に似ています。名前にアメリカと入っていますが、全世界より発表があって国際てんかん学会より規模も内容も上回っています。

私は3日目に「重症心身障害領域におけるトレンド脳波の応用～けいれんコントロールにおける有用性について～」という演題名で、特殊な脳波を難治なてんかん患者さんに応用した研究をポスター発表させていただきました。24時間脳波を記録するトレンド脳波を検討すると、見た目では発作と判別できない状態でも脳では「発作」が起きていることやその逆のことがしばしば起きていました。トレンド脳波によって患者さんのけいれんの「実像」が分かり、抗てんかん薬を調整したところ良好なコントロールが得られるなど、見た目の発作が分かりづらい重症心身障害分野では大変有用であるという内容です。この分野でトレンド脳波を応用した世界初の発表となり、自分の施設でも応用できるのではないかと質問が多数寄せられました。

発表以外の時間は、日本ではこれから導入される新しい抗てんかん薬を多数使用している臨床医の講演や私が研究を続けている高い周波数の脳波に関する最新の研究、日本で多い急性脳症に関する話題など、可能な限り会場を回って最新の知識を仕入れてきました。しかし、今回最も印象に残ったことは、日本の某病院の看護師と臨床検査技師が多数来場していたことです。私の知る限り日本から医師以外の職種では初参加になります。この学会は多職種で作り上げているので当然と言えば当然ですが、この流れが日本でも定着してさまざまな支援が必要な難治てんかんの患者さんとその家族にとって福音となることを願ってやみません。もちろん、当センターからも近い将来に参加があることを期待しています。

ちょうどクリスマスシーズンでもあり、シアトルの街はイルミネーションに彩られており、日常を離れていい気分転換になりました。夜は旧交を温める機会もありましたが、中でもかつて研究留学していたミシガン小児病院の元同僚たちと同じ苦労をした仲間ならではの、裏表のない話ができただけが一番の収穫でした。最後に、師走の忙しい時期に私のフォローを1週間近くしていただいた大越先生、岡部看護長はじめ、3-2病棟スタッフの皆様がこの場をお借りしてお礼申し上げます。



元同僚とスシバーにて交流

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>